**「主日礼拝」1月22日(日) 6:00､9:30､11:00**

**♪栄光と賛美を** (新生21) **～祈り～ ～歓迎～ ♪きみは愛されるため生まれた**

**～主の祈り～ ♪驚くばかりの** (リビングプレイズ64) **♪輝け主の栄光** (リビングプレイズ110)

**メッセージ ｢もう殺すな！光の中をいきなさい！｣ ♪あなたとともに** (新生542)

**～感謝の祈り～ ～十分の一とささげもの～ ♪目を上げよ** (LP32) **♪父み子聖霊の** (新生674)

 **【ヨハネ8章】**〔7:53 そして人々はそれぞれ家に帰った。8:1 イエスはオリーブ山に行かれた。2 そして､朝早く､イエスはもう一度宮に入られた｡民衆はみな､みもとに寄って来た｡ イエスはすわって､彼らに教え始められた。3 すると､律法学者とパリサイ人が､姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て､真ん中に置いてから、4 イエスに言った｡「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。5 モーセは律法の中で､こういう女を石打ちにするように命じています。ところで､あなたは何と言われますか｡」6 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは､イエスを告発する理由を得るためであった。しかし､イエスは身をかがめて､指で地面に書いておられた｡ 7 けれども､彼らが問い続けてやめなかったので､イエスは身を起こして言われ た｡ ｢あなたがたのうちで罪のない者が､最初に彼女に石を投げなさい｡」8 そしてイエスは､もう一度身をかがめて､地面に書かれた。9 彼らはそれを聞くと､年長者たちから始めて､ひとりひとり出て行き､イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。10 イエスは身を起こして､その女に言われた｡「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか｡｣ 11 彼女は言った｡「だれもいません｡」そこで､イエスは言われた｡「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません｡｣〕

　　　12 イエスはまた彼らに語って言われた｡ ｢わたしは､世の光です。わたしに従う者は､決してやみの中を歩むことがなく､いのちの光を持つのです｡｣ 13 そこでパリサイ人はイエスに言った｡「あなたは自分のことを自分で証言しています。だから､あなたの証言は真実ではありません｡｣ 14 イエスは答えて､彼らに言われた｡「もしこのわたしが自分のことを証言するなら､その証言は真実です｡…15 あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだれをもさばきません｡ 16 しかし､もしわたしがさばくなら､そのさばきは正しいのです。なぜなら､わたしひとりではなく､わたしとわたしを遣わした方とがさばくのだからです。17 あなたがたの律法にも､ ふたりの証言は真実であると書かれています。18 わたしが自分の証人であり､また､わたしを遣わした父が､わたしについてあかしされます｡｣

 …23…イエスは彼らに言われた｡「あなたがたが来たのは下からであり､わたしが来たのは上からです。あなたがたはこの世の者であり､わたしはこの世の者ではありません。24 それでわたしは､あなたがたが自分の罪の中で死ぬと､あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが､わたしのことを信じなければ､あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです｡」…31 そこでイエスは､その信じたユダヤ人たちに言われた｡「もしあなたがたが､わたしのことばにとどまるなら､あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。32 そして､あなたがたは真理を知り､真理はあなたがたを自由にします｡…34…罪を行っている者はみな､罪の奴隷です。35 奴隷はいつまでも家にいるのではありません。しかし､息子はいつまでもいます。36 ですから､もし子があなたがたを自由にするなら､あなたがたはほんとうに自由なのです。37 わたしは､あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかしあなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが､あなたがたのうちに入っていないからです。38 わたしは父のもとで見たことを話しています。ところが､あなたがたは､あなたがたの父から示されたことを行うのです｡…44 あなたがたは､あなたがたの父である悪魔から出た者であって､あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり､真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは､自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり､また偽りの父であるからです｡…46…わたしが真理を話しているなら､なぜわたしを信じないのですか。47 神から出た者は､神のことばに聞き従います。ですから､あなたがたが聞き従わないのは､あなたがたが神から出た者でないからです｡…56 あなたがたの父アブラハムは､わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て､喜んだのです｡」57 そこで､ユダヤ人たちはイエスに向かって言った｡「あなたはまだ50歳になっていないのにアブラハムを見たのですか｡」58 イエスは彼らに言われた｡「…アブラハムが生まれる前から､わたしはいるのです｡」59 すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし､イエスは身を隠して､宮から出て行かれた。

**1月第4週メッセージ ｢もう殺すな！光の中をいきなさい！｣（ヨハネ８章）**

　　　先週のヨハネ7章では､終わりの日の再臨を表す仮庵の祭りにエルサレム神殿で主イエスは立って大声で叫びました｡「渇いている者たちよ！わたしから御霊を飲みなさい！そしてあなたも御霊が生ける水の川のようにあふれ出す者となりなさい！」あなたも渇いて主イエスを求め､酒ではなく主の霊を飲んで酔うなら､聖霊様が心からあふれ出して家族や周りの人たちをいやしてくださいます。では今週は8章に進みましょう。

　**〔7:53 そして人々はそれぞれ家に帰った。8:1 イエスはオリーブ山に行かれた。2 そして､朝早く､イエスはもう一度宮に入られた。民衆はみな､みもとに寄って来た。イエスはすわって､彼らに教え始められた。3 すると､律法学者とパリサイ人が､姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て､真ん中に置いてから、4 イエスに言った｡「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。5 モーセは律法の中で､こういう女を石打ちにするように命じています。ところで､あなたは何と言われますか｡」6 彼らはイエスをためしてこう言 ったのである。それは､イエスを告発する理由を得るためであった。しかし､イエスは身をかがめて､指で地面に書いておられた。7 けれども､彼らが問い続けてやめなかったので､イエスは身を起こして言われた｡ ｢あなたがたのうちで罪のない者が､最初に彼女に石を投げなさい｡」8 そしてイエスは､もう一度身をかがめて､地面に書かれた。9 彼らはそれを聞くと､年長者たちから始めて､ひとりひとり出て行き､イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。10 イエスは身を起こして､その女に言われた｡「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか｡｣ 11 彼女は言った｡「だれもいません｡」そこで､イエスは言われた｡「わたしもあなたを罪に定めない｡ 行きなさい｡ 今からは決して罪を犯してはなりません｣〕**

　　　イエスさまは､何とすごいお方でしょう。人の知恵では到底このようなやりとりはできません。実はこの話前の7章の最後53節から8章11節まで全体が〔亀甲括弧〕でくくられています。というのは､発見されている聖書の一番古い写本の多くには､この箇所がないからです。そういう箇所は他にもいくつかあって（たとえばマルコ16:9以降）､もともと聖書に無かったと言って重要視しない学者たちもいます。けれども､このヨハネ8:11までの箇所こそ､神の義と愛とがあふれている､御言葉の真髄と言えるのではないでしょうか。

　　　水と光､シロアムの池から水を汲んで祭壇に注ぎ､燭台に光を灯す仮庵の祭りを神殿で祝った人々は､夜､家に帰りました。でもイエスさまにとっては､神殿こそが父の家ですから､帰る場所はあとは天しかありません｡エルサレムで神殿より高い場所は…東にあるオリーブ山だけです。そう。イエスさまがオリーブ山に行かれたのは､キリストが天の父の家に帰ることを表しています。そしてイエスさまがまた神殿に戻って座られた。再臨のキリストが御座についたのです。**エゼキエル11章「19 わたしは彼らに一つの心…すなわち…新しい霊を与える｡」**聖霊が与えられ主の民が一つ心となるとき､**「23 主の栄光はその町の真ん中から上って､町の東にある山の上にとどまった｡」ゼカリヤ14章「4 その日､主の足は､エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ…5…私の神､主が来られる」**主の栄光=世の光としてキリストは､オリーブ山から来られたのです。

　　**「3 すると､律法学者とパリサイ人が､姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て､真ん中に置いてから、4 イエスに言った｡「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。5 モーセは律法の中で､こういう女を石打ちにするように命じています。ところで､あなたは何と言われますか｡」**

　　　驚くことに､ヨハネ福音書で「律法学者」が登場するのはここだけです。彼らは姦淫=不倫の現行犯で逮捕した女性を連れてきました。聖書は姦淫の罪について何と言っているでしょうか？

　　(十戒)**【出２０:１４、申命記５:１８】 姦淫してはならない。**

**【申命記２２:２２】夫のある女と寝ている男が見つかった場合は、その女と寝ていた男もその女も、ふたりとも死ななければならない。あなたはイスラエルのうちから悪を除き去りなさい。**

　　　既婚者同士の不倫であれば､男性も連れて来られたはずです。女性だけ連れて来たということは､彼女はもしかすると処女でなかったことが発覚した､結婚式を終えたばかりの花嫁だったかもしれません。

　　　いずれにせよ､人々が殺そうとしていたのはこの女性ではなく､彼らはイエスを殺しかたったのでした。

**「6 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは､イエスを告発する理由を得るためであった。」**

　　「しかし､イエスは身をかがめて､指で地面に書いておられた」神殿の地面に一体何を書いていたのか。そのことについて聖書は沈黙しています。でもイエスさまの指は「神の指」です。神自ら指で書かれたものと言えば…？**【出エジプト３１:１８】こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち、神の指で書かれた石の板をモーセに授けられた。**

　　シナイ山に登ったモーセが光り輝く顔と十戒の石の板を持って山から下りて来たように､オリーブ山から下りて来られたイエスさまは､闇に満ちた人々の真ん中でただ一人世の光として光り輝きながら､十戒の御言葉を書いておられたのではないか､と私は思うのですが､みなさんはいかがでしょうか？

　**7 けれども､彼らが問い続けてやめなかったので､イエスは身を起こして言われた｡｢あなたがたのうちで罪のない者が､最初に彼女に石を投げなさい｡」**

　　　これは十戒の第6戒「殺すな」という宣言でした。しかも律法に反して「石を投げるな」とは言わずに､「罪のない者が､最初に石を投げなさい」と言われた。死刑について律法には､**申命記17:7「死刑に処するには､まず証人たちが手を下し､ついで､民がみな､手を下さなければならない｡」**とありますが､罪のない者こそ証人だとイエスさまはおっしゃったのです。そして､この女性とイエスをさばいて罪に定めようとしていた人々全員を､人を罪に定めずむしろ罪から解き放っていく神の国の生き方へとイエスさまは変えられたのです。そして彼らが去って行くと､イエスさまは今度はこの女性に言われました。

　　　**「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません｡」**これは十戒の第7戒「姦淫するな」という宣言です。では､一体この姦淫の女性とは誰だったのか？聖書はその名前を明らかにしていません。けれども先ほどのヒントは先ほどの申命記17章にあります。

　　　**【申命記１７章】 2 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる町囲みのどれでも、その中で、男であれ、女であれ、あなたの神、主の目の前に悪を行い、主の契約を破り、3 行ってほかの神々に仕え、また、日や月や天の万象など、私が命じもしなかったものを拝む者があり、4 それがあなたに告げられて、あなたが聞いたなら、あなたはよく調査しなさい。**

　　　そうです。主の民イスラエルこそ､夫である主なる神を捨てて他の神々に走った姦淫の妻であり､私たち異邦人クリスチャンも､花婿主イエスよりも何かを大切にし､それに身をかがめているなら､それが宗教であれ仕事であれお金であれ趣味であれスマホであれ､私たちこそ石で打ち殺されるべき､罪深い姦淫の花嫁なのです。また私たちは同時に､自ら罪人なのにもかかわらず､今日も両手に石を持って気に入らない誰かを訴えて打ち殺そうとしている､偽りの証人なのです。

　　　でもそんな私たちに､誰かに石を投げようとしているあなたに､今日イエスさまは言われます。｢あなた自身罪がないなら石を投げなさい…でも､罪があるなら､静かに石を置きなさい。わたしの愛する者を､殺すな。あの人の罪は､わたしが十字架で死んで償った。だから､あなたは愛しなさい｡」

　　　また誰かから石を投げられそうなあなたにイエスは言われます｡「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。もう罪を犯すな。姦淫するな。愛する家族を裏切るな。神を裏切ってこれ以上悲しませるな｡」

　　　そしてイエスさまは言われます。**12 ｢わたしは､世の光です。わたしに従う者は､決してやみの中を歩むことがなく､いのちの光を持つのです｡」**わたしは…です､とは「わたしこそ有って有る者」主なる神だという宣言です。いのちのパン＝御言葉でわれらを生かすイエスさまは､世の光として世を照らし､すべての罪を明るみに出されます。実際､仮庵の祭りでは､神殿で大きな燭台に光が灯され､その光が神殿中に満ちて暗い所がなかったそうです｡「やみは光に勝たなかった」恐れずに今日､勝利の光の中を歩み出そうではありませんか。

　　**13 そこでパリサイ人はイエスに言った｡「あなたは自分のことを自分で証言しています。だから､あなたの証言は真実ではありません｡｣ 14 イエスは答えて､彼らに言われた｡「もしこのわたしが自分のことを証言するなら､その証言は真実です｡」**

　　　訴える者たちは「自分のことを自分で証言するのは偽証だ（証人は二人以上必要だから）」と訴えます。しかし父と御子ご自身が証しされるので､この証言は有効（真実）なのです。

**15 あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだれをもさばきません｡**

　　　主イエスは姦淫の女性をも､人々をも､そして私たちをも裁かず赦し愛されます。そして「父よ､彼らをお赦しください」と言いながら､私たちの代わりに主イエスは十字架で裁かれました｡

　　　もちろん聖書にあるとおり､最後には裁きの時が訪れます。私たちが主イエスの血潮による罪の赦しと救いを受け取り､私たちも主イエスのように隣人を裁かずに愛したかどうかという裁きにかけられるのです。

　**23…あなたがたが来たのは下からであり､わたしが来たのは上からです。あなたがたはこの世〔から〕の者であり､わたしはこの世〔から〕の者ではありません。24 それでわたしは､あなたがたが自分の罪の中で死ぬと､あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが､わたしのことを信じなければ､あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです｡**

　　「殺してはならない…行きなさい…もう罪を犯してはならない｡」とイエスさまは言われました。なぜなら､主イエスを信じ従い続けずに罪を犯し続けるなら､私たちは自分の罪の中で死んでしまう＝他でもない自分自身を殺してしまうからです。「行きなさい」は「生きなさい」でもあります。罪の闇に死なず､愛のいのちの光の中を生き続ける。これが神の国の永遠のいのちです。

**31…もしあなたがたが､わたしのことばにとどまるなら､あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。32 そして､あなたがたは真理を知り､真理はあなたがたを自由にします。34…罪を行っている者はみな､罪の奴隷です。35 奴隷はいつまでも家にいるのではありません。しかし､息子はいつまでもいます。36 ですから､もし子があなたがたを自由にするなら､あなたがたは本当に自由なのです。**

　　　「わたしのことばにとどまる」この「わたしのことば」とは､決して福音書でイエスさまが言われた箇所のことだけではありません。聖書の御言葉は創世記から黙示録まですべて「ことばなる神」イエスさまそのものですから､好きな御言葉だけ大切にするとか､ここは難しいから離れるといったことなく､すべての御言葉に「とどまる」(滞在する､離れない､その持ち物となり続ける､捨てない､別物にならない､待ち望み続ける)なら､私たちは「ほんとうに」(真理に)主イエスの弟子なのです。主イエスの弟子となることが真理を知ることであり､もはや罪の奴隷ではなく御子イエスとともに天の父の子とされるのです。

**37 わたしは､あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかしあなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが､あなたがたのうちに入っていない〔場所を作っていない〕からです。**

　　　ユダヤ人はアブラハムの子であることを誇りとしていました。主の民の伝統を重んじているつもりだったのです。しかし肝心な神の御言葉が入っていない（自分のうちに神の言葉を収める場所を作っていない）ため､伝統を覆すかに見えたイエスを殺そうとしていました。私たちも伝統やこれまで常識だと思い込んできた生き方で一杯だと､神の御言葉を収める余地がありません。一旦すべて主にお返しし､御言葉を収めましょう｡

**38 わたしは父のもとで見たことを話しています。ところが､あなたがたは､あなたがたの父から示されたことを行うのです｡…44 あなたがたは､あなたがたの父である悪魔から出た者であって､あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり､真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは､自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり､また偽りの父であるからです｡**

　　　イエスさまは天の父のもとで見たことを語られます。でも私たちはなんと！偽りの父である悪魔の子としてこれまで生きてきた､否､死んでいました。人殺しである悪魔に殺され続け､悪魔の人殺しを手伝ってきてしまったのです。天の父の願い＝御心ではなく､偽りの父の欲望を成し遂げたいと願うこと＝それが罪です。　悪魔＝サタンとは「訴える者」という名。訴えて罪に定める悪魔の子ではなく､あなたも愛する神の子です。

　　　**46 わたしが真理を話しているなら､なぜわたしを信じないのですか。47 神から出た者は､神のことばに聞き従います。ですから､あなたがたが聞き従わないのは､あなたがたが神から出た者でないからです。56 あなたがたの父アブラハムは､わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て､喜んだのです｡**

　　　悪魔から出た者､下から出た者､この世から出た者であった私たちが､神から上から天から出た御子イエスの十字架と復活によって､主イエスとともに神の子とされました。諸国民の父であり信仰の父であるアブラハムは､イサクを見て喜んだ以上に､今日あなたが御言葉に聞き従う神の子として生まれるのを喜んだのです｡

　　　**57 そこで､ユダヤ人たちはイエスに向かって言った｡「あなたはまだ50歳になっていないのにアブラハムを見たのですか｡」58 イエスは彼らに言われた「…アブラハムが生まれる前から､わたしはいるのです｡」59 すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし､イエスは身を隠して､宮から出て行かれた。**

　　　「わたしはいる」ギリシア語でエゴエイミ､ヘブライ語でイヒイエ「わたしは有って有る者」モーセに明かされた主なる神の名前をイエスは用いて､ご自分が神であると宣言されました。

　　　今､二つの選択肢があります｡

　　　「それでもおまえは神ではない！」と石を投げますか？

　　　それとも彼の愛の中に入り､これ以上罪によって自分も人も殺さずにいのちの光の中を歩み出しますか？

　　しばらく祈りましょう。心を注ぎ出して本当の思いを告白していきましょう。罪がやめられず苦しんでいるあなたも､どうしても赦せない人がいて石を握りしめているあなたも､主イエスの十字架のもとに今､石を置いて祈りましょう。これ以上､霊的な姦淫を続けて神を裏切り悲しませないように。石を投げて人も自分も傷つけ殺さないように｡「いきなさい」と今あなたを愛といのちに招かれる主に答えて祈っていきましょう。

　　　新生讃美歌542♪あなたとともに を賛美します。主イエスの愛に満ちて､主とともに生きたいと願う方は､祝福を祈りたいと思いますので､歌いながらぜひ前へお進みください。